

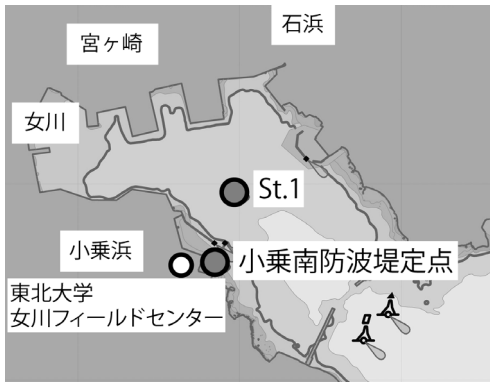
週刊 女川湾海況速報 (No.35)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

3 月 18 日から 22 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温は全層で上昇したが、経時的には 21 日以降に全層で下降。塩分は先週と比較して表層(0m)で上昇したが、底層(5m)では下降。経時的には 21 日に全層で上昇。21 日の水温の下降は気温の下降の影響、塩分の上昇は外洋水の影響と推定。

水深 [m]	3月18日 (月)	3月19日 (火)	3月21日 (木)	3月22日 (金)
0	7.5 (33.5)	7.6 (33.2)	7.2 (33.8)	7.0 (33.3)
5	7.2 (33.6)	7.5 (33.4)	7.1 (33.6)	7.0 (33.3)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位はパーミル(千分率)。1パーミル = 1PSU (実用塩分単位)。

*18日は水深6mのデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で上昇。経時的には 19 日に底層で上昇した後、21 日には全層で下降(1FTU 以下)。(単位は FTU)

水深 [m]	3月18日 (月)	3月19日 (火)	3月21日 (木)	3月22日 (金)
0	1.0	1.0	0.8	0.4
5	0.5	1.6	0.8	0.5

③溶存酸素：先週と比較して全層で下降傾向にあるが、10mg/l 台を維持。経時的には 19 日に全層で上昇した後、21 日には全層で下降。

水深 [m]	3月18日 (月)	3月19日 (火)	3月21日 (木)	3月22日 (金)
0	10.4	10.7	10.6	10.6
5	10.6	10.7	10.4	10.5

単位は mg/l。水産用水基準(水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値)：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 6.9~7.0℃、33.4~33.7 パーミルの範囲にあり、水温は鉛直的にほぼ一定であるが、塩分は水深とともに上昇傾向。濁度は 0.7~1.0FTU の範囲にあり、底層(20m)で最大。溶存酸素は 10.1~10.3mg/l の範囲にあり、水深 15m 以深で最小。

3月22日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [パーミル]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	7.0	33.4	0.7	10.3
5	7.0	33.6	0.7	10.3
10	6.9	33.7	0.8	10.3
15	6.9	33.7	0.9	10.1
20	7.0	33.7	1.0	10.1

本データの利用については、東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

までお問い合わせください。